

## これまでいただいた主なご意見等 (第 1 回協議会での意見交換会やご意見等記入シートより)

### 結婚、妊娠・出産

- ・縁結び ist による成婚数は増加しており、より多くの方に利用してもらえる方策を考えていきたい。
- ・高校生を対象に結婚して家庭を持つ人生設計を考えてもらうライフプランセミナーは好評で、若いときから人生設計を考えることは大変重要。
- ・自分の地域の青年団、壮年会の活動で、出会いの場を多くつくるようなイベントを行っているが、各地域にも広がるとよいと思う。
- ・企業間の交流の場として、3年前から人間力向上セミナーを開催しているが、女性の参加があまり芳しくないという課題がある。
- ・働き方改革で医師の需要が増える一方、専門医のシーリングなど小児科医の育成が厳しくなっており、医師の高齢化もあいまって、小児科・産科医の確保が今後心配である。
- ・最近の若者の傾向として、結婚を希望する人が少なくなっているということについて、少し手当てする必要があるのではないか。
- ・ナースについて、産休や育児休業の施策がよくなって離職者はいないが、育児休業期間の延長など実際に働く30代が少ないという状況が続いている。ライフスタイルにあわせた働き手の確保が課題。
- ・生物学的な適齢期についても理解を得ていくことも必要
- ・人生設計を考え出すタイミングが大切
- ・若年、望まない妊娠出産者への細やかな支援が必要

### 子育て支援について

- ・お母さんに子どもを育てる力がなく、子どもを生めば当たり前前に親としての世話ができるなどの社会通念的な考えで、お母さんが追い込まれている。
- ・子どもが保育園に入りお母さんが保育士さんと相談ができるまでの間、産後ヘルパーがお母さんのお宅に親のモデルとして家庭に入り、お母さんが実際に体験していくという支援がとても必要になってきている。
- ・もう一人生みたい気持ちはあるが、育てられるか大変不安を感じる。フルで働けばそれなりの収入になるが、やはり子育てもしたい、子どもをきちんと見守りたいという気持ちもありジレンマを大きく感じる。
- ・仕事をし、帰ってくれば家事と育児とで時間との闘いになっていくので、すごく孤独感を感じる。その中で、ママ同士で何気ない会話をし、お互い大変だが頑張ろうというモチベーションを上げる場として、子ども食堂を利用しており助けられている。
- ・仕事と家庭のバランスもだが、母親と一人の人間としてのバランスを保つことが子どもを健全に育てるために必要と感じる。

- 色んな施策はあるが、それが解決策になっているのか、基本的なバックデータが見えない。例えば、子育てを不安に思う方の割合、県内の市町の出生率の比較、子どもがいる人・いない人の経済的な格差、出生率が高い他県との比較、子育てに困ったときに助けられたのはどんなところかなどある程度絞った対象でもいいのでデータを拾い出して、それを施策の検討に活かすということをするべきではないか。
- 子育てに不安を持っていると思われる方が、保育園などにある子育て広場に参加されていない。同じ年代の子ども達を育てるお母さんとしていろいろな情報を得られるので、そういう人たちをどういうふうにしていったら呼び込めるのか。
- 10月からの保育料の無償化で、保育園やこども園へ入園希望者が増えることが予想されるが、保育士が現在足りていないのに、どう対応したらいいのか不安になる。
- 保育士の人手不足、幼稚園教諭の人手不足は、それぞれの団体が、こういう素晴らしい仕事だよということを発信していかなければいけない。
- 保育士不足については、オープンナースリーという形で保育所での学生の体験や、若手の保育士のカフェ方式での意見交換の場の設置、宿舍の支援などに取り組んでいる。
- 家庭の収入が非常に貧しい1号認定への支援ができているのが、在宅育児通園モデル事業で高く評価している。ぜひともあきらめないで続けていただきたいが、幼稚園由来の認定こども園が少なく知られていない。
- 核家族でどこにも預けることができないと、第2子の出産を躊躇することもあるかと思うので、ショートステイは非常に大事な政策の一つ。できるだけ県内どこにいてもサービスが受けられるような体制になればよいと思う。
- 妊娠、出産した母親が母親として育てるようにまねられるモデル、不安・孤立感を受け入れてくれる先輩ママの役割がとても大事

## 子どもの健全育成について

- 放課後児童クラブのニーズの高まりには、行政の財政的な援助やひとり親家庭への支援もあり、共働き世帯の親が放課後児童クラブの必要性を感じていることがある。
- 能登地域では、小学校の統廃合で遠くから通ってくるという実態があり、放課後子ども教室との連携が非常に重要になってくると思うが、保険の問題があり、石川県だけでなく全国的に総合的な子どもたちに対する保険制度を考えないといけない。
- 放課後児童クラブの支援員の要件が緩和されるようになってきたが、財政的に厳しいから支援員の数を減らしてよいという方向にならないよう（プランに）書き込んでいただきたい。
- 子どもたちがスマホでゲームをするというのが主流で、子どもたち自身の間のコミュニケーションが極端に減っている中、人と人との出会いや、体験、経験の中でたくさんのことを学んでいく学童保育の役割は大きい。
- 親のネットに対するモラルというのも少し学んでいかなければいけない。

- ・今度のプラン改定の中で「子どもの安全の確保」を充実していただきたい。
- ・歩いて学校の行き帰りをしている子どもが特に田舎では少なく、なかなか指導的なことができないという部分も多い。
- ・健全育成について、子どもだけを見るのではなくて、親とか地域の人の考え方というのを見ていって、自分ごととしてやっていかなければいけない。
- ・兄弟やいとこなどの関係が希薄な中、第2の家庭としてのクラブの役割がとても大事になってきている。ひとり親の保護者の方などは、支援員さんと信頼関係が出来ていればと手も心強く、子育ての孤立感も軽減していくと思う。

### **保護を必要とする子どもへの支援について**

- ・虐待まではいなくても、不登校やいじめなどの問題が発生したときにどこかで保護しながら学校へ行けるようにするという必要になる。
- ・精神科医等の児童養護施設への派遣訪問は本当に大事な部分で非常に助かっている施策
- ・虐待を受けて離婚してきた母親の入所件数が職員のやりくりを考えるまでに増えてきており、そうした方に職員が子どもたちに朝ご飯作るのが好評
- ・民生委員をしているが、自分の地区でハッピー子育てという入園していない幼児を集めて、お母さんたちの育児の悩み相談などをしてもらっているが、すごく喜ばれている。
- ・放課後等デイサービスが今すごく増えているが、質の高い職員がきちんと障害のある方に関わるということが大事
- ・障害のある方は、やはり切れ目のない支援が必要だが、特別支援学校を卒業し手厚い支援から切り離されてしまったあと施設でどう見ていけばいいか
- ・医療的ケアの必要なショートステイについて、学校では医療的ケアはかなり手厚く行われているが、一般の入所施設で看護師がきちっと配置されているところはまずなく預かることができない。
- ・行動上厳しいお子さんを見ていけるよう、地域生活支援拠点を設置し、相談されてすぐに利用できる体制整備ができればいいと思う。

### **仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について**

- ・女性もお年寄りも子どもも仕事をしなければ生活できない一億総活躍社会の中で子育てができる環境になっていない。一件の家の収入が減っており、賃金の引き上げや、非正規の方々を正社員に引っ張り上げるかが課題。
- ・今、二人に一人の子どもが大学卒業のため奨学金という名の借金を抱えて社会に出てくる。結婚を躊躇し、仮に結婚できても、子どもを生めるのか、負のスパイラルになってしまっている。
- ・地域にイベントが多くあるところは、自分の子どもも自分の小学校に行かしたいと思う親が多い。七尾市石崎町はモデルケースとまでは言わないが、そういう地域コミュニティーがある。
- ・小規模事業者にとって、働き方改革は非常に厳しいが、ひいては、少子高齢化

対策につながるため協力していかないといけない。

- この5年間で達成できなかったものは、どういう問題点があって、なぜ達成できなかったかの分析を基に新しい施策を打ち出していけるのか、現状認識だけではなくて、できる限り具体的な内容にしていきたい。
- 働き方改革関連法は、まだまだ順次施行が続いていくが、次期プランの計画の中に反映できるような施策を石川県とも一緒に進めていきたい。
- 一般事業主行動計画の策定・促進については、石川労働局の方ではくるみん認定マークに取り組んでいるところで、あわせて一緒に取り組んでいきたい。
- 本年6月に女性活躍推進法の改正法が成立し、女性活躍推進に取り組む行動計画を策定する法律上の義務が301人以上から101人以上に拡大する。公布後3年以内の施行で、多くの企業に女性活躍推進に取り組むメリットについて十分理解をしていただき取組を進め、次期プランに反映できるような取組をはかっていきたい。
- 男女等しく子育てに関われるよう男性の働き方の改善が重要。男性育児休業も手厚くしていくとよい。テレワークなど推進も重要。また、職場そのもののソフト・ハード面の快適さによる生産性向上を目指していければと思う。
- 子育ては女性だけの仕事ではない。男性の育児時間の保障、賃金を上げなければ、子育てはつらい。
- イクボス宣言をしている石川県であれば、父親の育児参加を快く応援してくれる体制を作ってほしい。
- 大手の会社や行政では、育児休暇を積極的に推進し、男性の育児休暇の取得の割合が高くなってきたが、中小企業や自営業ではなかなか取りづらい。収入減を考えると困難、事業主の理解が問題であると思う。